日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行　日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3－6　電話24－2456

誰ひとり取り残さない松江へ

市議会９月定例会はじまる

ガス局民営化問題や令和４年度決算

松江市議会９月定例会はじまる

市民の暮らしまもれ・原発ＮＯ　市議団が訴え

９月５日、松江市議会９月定例会が始まりました。会期は10月２日までの28日間です。初日の本会議では議案の提案が行われました。大雨被害の復旧費など、総額５億２千６百万円の今年度一般会計補正予算や、子ども医療費助成拡大に伴う条例改正、松江市ガス事業の譲渡先選定などを担う有識者委員会の設置に係わる条例案などです。

また９月議会では令和４年度の各会計について決算が審議されます。一般会計決算案のほか国保事業など特別会計７議案、上下水道・病院・交通事業・ガス事業などの５公営企業会計の14会計の決算案が示され合計で49議案が上程されました。

補正予算の主なものとして５月と７月に発生した大雨被害を受けた農業用施設や道路の復旧経費１億７８００万円、ガス事業の譲渡先選定の調査や準備の業務委託費６７４５万円、「職人商店街」実現へ市内の旧店舗でそば打ちが体験できる店舗やベンチャー企業向けオフィスへの改修費用６千万円、コロナ禍での物価高騰対策として畜産農家の飼料代補助、交通事業者への燃料費補助等へ４３３９万円などが計上されています。

補正後の一般会計予算総額は、前年度同期比３・５％減の１０６２億２８００万円となります。

一般質問は11日から13日まで行われ、共産党市議団舟木けんじ、たちばなふみ両市議は13日に質問しました。

質問項目は以下の通りです。

◇舟木けんじ市議

①島根原発１号機廃炉計画変更に係わる事前了解について

②認知症になっても地域で共に支えあい、生き生き暮らせるまちづくり

舟木けんじ
市議会議員

◇たちばなふみ市議

①原発汚染水放出許されない

②猛暑対策ふりかえり～市民生活や学校

③コロナ禍物価高騰対策～医療、介護、保育の現場で～

③ガス局民営化問題

④美保基地への米軍戦闘機緊急着陸問題

⑤再エネビジョンとメガソーラー

たちばなふみ
市議会議員

詳細は次号より紹介していきます。

初日の５日は、本会議につづき市議会全員協議会が開催され、教育委員会の点検評価、及び、島根原発１号機の廃炉措置計画変更が議題となりました。原発問題について裏面で報告します。

社会の歩みに人生を重ねて⑤

本をめぐる話③

衆院島根一区予定候補　**村穂　江利子**

十代で出会った文学作品で印象深かった２作品のうちの一作、『大地』（パール・バック著）との出会いは、高校２年の夏。この作品も、『風と共に去りぬ』同様、作中の人物各々がもつ「生きる」ことへの熱量と、人としての「正直さ」が、私を強く捉えました。

本作は、中国の広大な地に生き、そしてそこに根を張る「一族の歴史」とも言える作品。家族の盛衰を背景にしつつ、「家族のあり方」が問われている印象の作品です。中でも十代の琴線に触れたのは、「家族であろうとも分かり合えないことはある」、「自分の中にあるどうしようもない感情が家族を苦しめることもある」―そういう、生きていく上で図らずも起こる不条理と、時に理不尽なことをもしてしまう人間の姿でした。

人の中に巣くう善なる面とそうではない面。人は、自己矛盾と背反の中で人生を送りながら、本当の自分になっていくのか？そうであれば、日々感じる葛藤も、ある意味自分を琢磨しうるものなのか？当時はそんなことも考えていたことを思い出します。

時代は変われど、「十代は悩み多き時代」であることに変わりないと思いますが、私にとっては、「文学」を通じて揺さぶられる感情が前進のエネルギーとなり、あの時代を乗り越えさせてくれたと思っています。まさに、文学万歳！です。

むらほ　えりこ
衆院予定候補